



にしく市民活動支援センター にしとも広場

2017(平成 29)年度 事業報告書

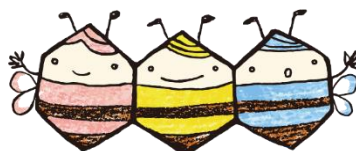
管理運営：認定特定非営利活動法人市民セクターよこはま

I. 運営方針

ここに来れば「何かができる」「何かが始まる」センターを目指し、まずは「実際の活動につながるきっかけ」を例年以上に増やすこと、そして、その「きっかけ」を「もっと幅広い人たちに知ってもらう」ことが必要と考え、機会創出と情報発信に注力しました。

II. 重点事業

- 1人ひとりの「何かを始めたい」を実際の活動につなげる工夫をし、機会をつくりました。
 - ・ 「昼どきコンサート」として、音楽ボランティアの方々による、誰でも気軽に立ち寄れるイベント（毎月開催）を始めました。初めて当センターを訪れたという方が多く来られ、これを機会に、他の講座や活動に参加する方も増えてきました。また、演奏者側でも、出演を機に周知がすすみ、活動場所が広がる効果がありました。
 - ・ 「来て・見て・聞いての日」として、にしく街の名人・達人の披露の場でもあるミニ講座を実施しました。手芸や体操など様々な分野の講座を毎月1～2回開催することで、区民の方の興味をひき、初めての参加につながりました。
- 情報発信力を強化するべく、発信ツールを増やしました。
 - ・ カラー冊子の情報紙『にしとも広場』（年2回）、【NEW】簡易版情報紙『にしとも広場 mini』（年6回）、【NEW】『広報よこはま（西区版）』のコラム（年3回）、センター独自のフェイスブック、ホームページと、発信媒体を増やし、定期的に情報発信することで、より多くの区民の方に情報を届けました。特に、『にしとも広場 mini』は、当センターで開催するイベントを掲載し自治会町内会で班回覧をしたことから、地域の方に興味をもていただくことができました。



Ⅲ．事業ごとの計画

1．相談事業

◆ 相談機能の充実と日頃の会話から相談につなげる

昨年度に引き続き、誠実に一人ひとりと向き合い、その方の真のニーズを引き出す力、想像する力を日々の実践や研修で身につけ、職員の相談力をアップするよう努めました。また、定期的に利用される方々との日常的な会話や登録時のヒアリングからも、相談につながる糸口を見つけ、相談につながる関係づくりや、適切な情報提供ができるように心がけました。

1) 相談機能の充実

- ・ 相談件数実績は、546 件になりました。（前年度比 121%）

テーマごとの相談日を設けることで、相談しやすい場づくりを行いました。

- はじめの一步じっくり相談日/「何かやってみたい」、思いにじっくり向き合い一緒に考える相談日

- 団体運営なんでも相談日/諸手続きや労務関係まで、運営に係る事を気軽にできる相談日
- 一緒に考える相談対応を心がけ、相談の中から見えてくる真のニーズへの対応や、必要に応じ、地区センター、地域ケアプラザ、生活支援センター、社会福祉協議会などの専門機関との連携を図り、「つなぐ」役割を大切にしました。

- ・ 外国につながる子どもたちについて、日本語支援・学習支援の相談があったことを受けて、西区内の関係機関と検討を始めました。

2) 相談力の向上のための取組の実施

- ・ 職員全員で行う会議において、定期的に、最近 1 か月で行った相談対応の中の、気になる事例をピックアップして職員間で共有しました。実際に行った対応が良かったかどうか、もっと違う対応はできなかったか等職員間で話し合うことで、職員相互の意識のずれや認識のずれを修正し、より良い相談対応ができるよう取り組みました。

- ・ 職員研修において、相談対応における基本の 3 つのステップ（インテーク、コーディネート、クロージング）を再確認しました。

2017/9/26 「相談対話の基礎」講師：吉原明香氏（認定 NPO 法人市民セクターよこはま）

- ・ 活動に役立つ知っておきたいシリーズ【NEW】

活動団体、地域住民の方と一緒に学ぶ研修を開催し、共に学びながら基礎知識を高める機会を作りました。

	日時・場所	テーマ・内容
1	2017/12/12(火) 13:00-15:00 参加者：14名	『障害について 当事者から学ぶ』 当事者の方約10名に参加していただき、地域で暮らす中で感じていることや、希望をトーク形式で伺いながら、精神障害についての基礎知識を学びました。 講師：生活支援センター西 利用者 7 名、

		生活支援センター西 施設長 永瀬誠氏、職員2名 〈アンケートより〉 <u>平均点 86 点(100 点満点中)</u> ・今回のように当事者の思いをきける場がある講座を、また開催して欲しい。 ・インタビュー形式で複数人が講師として発表してくれたことで、色々な思いや状況を聞くことができて良かった。
2	2018/1/19(金) 13:00-15:00 参加者:17名	『認知症の人への理解と対応』 認知症についての基礎知識を踏まえたうえで、認知症の人と共に地域で暮らしていくため、また活動の場面で必要な対応方法を学ぶ。 講師:高齢者グループホーム 横浜ゆうゆう 施設長 井上義臣氏 〈アンケートより〉 <u>平均点 95 点(100 点満点中)</u> ・何度でも開催してもらいたい講座内容でした。 ・ロールプレイ、当事者の DVD など事例が良かった。 ・母の介護をする立場で有益な知識を得られました。今後活かしていきます。 ・DVD などもあり、わかりやすい講座でした。
3	2018/2/27(火) 13:00-15:00 参加者:10名	『いざという時役立つ 救急救命』 基本的な心肺蘇生法や、AED の操作を学び、いざという時に備えました。 講師:NPO 法人 JAEA 河波弘晃氏 サポート 1 名 〈アンケートより〉 <u>平均点 98 点(100 点満点中)</u> ・実技中心で、よかった。実践でも使えそうです。 ・実際の場を想定した訓練だったので、今後も役に立つと思った。 ・忘れないよう定期的に関心して欲しい。 ・AED の使い方は思ったより簡単だったので、体験してよかった。

2. 情報提供・発信事業

- ◆ 様々な情報提供のツールを使い、定期的、多面的に情報を発信しました。

今までは、年 3 回発行の情報紙『にしとも広場』での情報発信が中心でしたが、当センターの持つ情報や、当センターの周知をさらに促すために 3 つの紙媒体を活用しました。また、センター独自のフェイスブックを開設し、ホームページと合わせて活用しました。

1) 情報紙『にしとも広場』（カラー冊子・全 8P）の発行

- ・「共に暮らすまち」をコンセプトに、年 2 回、5,500 部（1 回あたり）を発行しました。
- ・区内外のユニークな取り組み、先進的な取り組みを中心に丁寧に取材し、これからの地域活動・市民活動に役立つ情報をわかりやすく発信しました。
- ・班回覧時に読みやすさを考慮し、左綴じ横書きに変更しました。

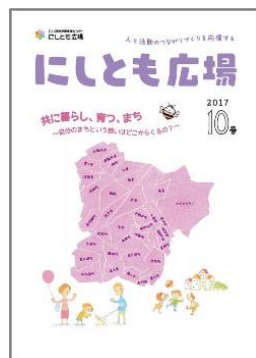
<特集内容>

第 10 号：「共に暮らし、育つ、まち ～自分のまちという想いはどこからくるの？～」

横浜市立大学准教授で、まちづくりや子育て支援の NPO 理事も務める三輪律江先生に、「共に暮らすまち」についてお話を伺いました。また、“地域に開かれた共有スペース”をもつ「藤棚のアpartメント」、西区内の取り組みを 2 例紹介しました。地域とつながりながら子どもが育つと、地域にとってどんな変化があるのか、また、一人ひとりが地域に対してどんな関わり方ができるのか、考えるきっかけとなりました。

第 11 号：「共に暮らすまち ～地域で活き生きイキメン's Life～」

地域での活動を活き生き楽しんでいる男性 3 名を取材しました。連動企画「地域で活き生き“イキメン”講座」開催告知と一緒に掲載するなど、地域活動や市民活動の第一歩を踏み出しやすいように紙面を構成しました。



<10 号>



<11 号>

2) 簡易版情報紙『にしとも広場 mini』(カラー A4 両面印刷) の発行【NEW】

- ・ オモテ面にはイベント情報や「西区街の名人・達人」登録情報、ウラ面には 2 ヶ月分のイベントカレンダーや“にしとも広場”からのお知らせなどを掲載し、年 6 回発行しました。
- ・ 広報には、情報紙『にしとも広場』と同様、自治会町内会の班回覧を活用しました。写真やイラストなどを効果的に使用し、分かりやすく、インパクトのある紙面づくりに努めました。



3) 『広報よこはま(西区版)』を活用した定期的な情報発信【NEW】

- ・ 『広報よこはま(西区版)』7・11・3 月号に、地域人材ボランティア「西区街の名人・達人」の活動を紹介するコラムを掲載しました。「西区街の名人・達人」の登録制度について、西区民に広く知っていただく機会となり、新たに登録する団体・個人が昨年度よりも増加しました。(2017 年度 18 件、2016 年度 4 件)



4) センター独自のフェイスブック開設【NEW】

- ・今までは運営法人のフェイスブックを活用し、イベント情報の告知や報告等を実施してきましたが、センター独自のフェイスブックを開始しました（8月31日～）。
- ・SNSを通じた情報収集が得意な世代も含めた幅広い層への情報発信を、よりタイムリーに行いました。



5) ホームページでの情報発信

- ・昨年度、リニューアルしたホームページを用いて、地域で開催されるイベント情報やボランティア募集情報など、タイムリーな情報発信を行いました。
- ・『にしとも広場 mini』など紙媒体でも、ホームページの存在をアピールしたり、フェイスブックと連動させるなど、ホームページへの誘導を行いました。

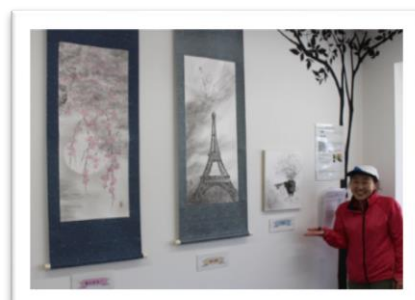
6) 展示スペースの活用

- ・地域人材ボランティアの更新時に、展示スペースの活用を呼びかけました。

ご自身の講座の期間に展示し、講座や作品についての周知を図る役割としても活用され、自主企画の講座で作成した作品と一緒に飾り、講師がSNS上で発信する場ともなりました。

- ・展示の様子を情報紙にしとも広場 mini に掲載し、周知を図りました。

展示利用者	展示物
吉田紅峯氏	水墨画の作品
tremani	てがたサンタのオーナメント
tremani	おりがみのクリスマス飾り
おりがみカフェ（にしとも広場）	おりがみカフェ製作作品「春」



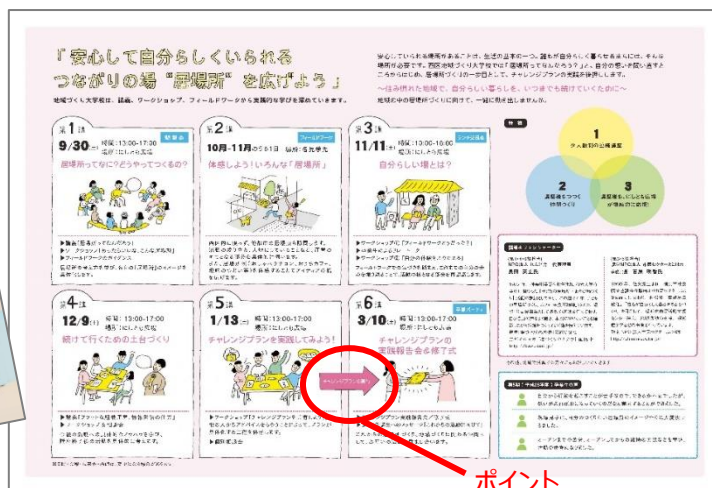
3. 活動ステップアップ・ネットワーク支援事業

◆ 活動者や団体の次のステップに向けた支援

日々活動する団体、個人に対して、ステップアップの機会や活動に新たな視点が入るような情報を提供しました。

1) 地域づくりの人材を養成する講座「西区地域づくり大学校（以下、西区地域大）」の開催

- ・ 本講座は、①講座後もつづく仲間づくり、②少人数制の連続講座、③講座終了後も“にしとも広場”が継続的に受講生を応援することを特徴とし、全 6 回を区政推進課と協働で開催しました。
- ・ 日頃より身近な地域でつながる必要性が高まっていることを背景に、昨年度に続き、「居場所づくり」をコンセプトに、テーマは「まちのホットな“つながりの場”づくり」としました。全講座を通じて、居場所づくりの一步目となる、チャレンジプランの実践を後押しする内容としました。また、他区も含めた、先駆的な事例の現場を実際に訪問し学ぶ機会を設けたり（第 2 講）、卒業後も受講生同士がつながり合えるように、コミュニケーションの時間を多く取り入れました（各講でワークショップ）。
- ・ 定員は、受講生同士のつながりや、受講後のフォローアップ体制を密にするため、今年度も 15 名としました。定員を上回る応募があり、抽選の結果、19 名の方が参加しました。参加者の年齢は、20 代から 70 代と、幅広い年代の方にご参加いただきました。内訳（20 代 1 名、30 代 3 名、40 代 4 名、50 代 1 名、60 代 8 名、70 代 1 名、不明 1 名）



	日時・場所	テーマ・内容
1	2017/9/30(土) 13:00-17:00 @にしとも広場 受講者数:15 名	『テーマ:居場所ってなに? どうやってつくるの?』 ・オープニング(開講の挨拶:早川恵庸氏(西区役所副区長)、受講生自己紹介、ガイダンス) ・講義:「居場所ってなんだろう?」 講師:長田英史氏(NPO 法人れんげ舎 代表理事) ・分かち合いワーク
2	①2017/10/14(土) ②2017/10/15(日) ③2017/10/21(土) ④2017/10/28(土)	『テーマ:体感しよう! いろんな居場所』 各回 2 時間程度。見学を行ったほか、活動についてのお話、質疑応答を行いました。 ①「もりのお茶の間」(横浜市金沢区) 受講者数:6 名 ②「岡さんのいえ TOMO」(東京都世田谷区) 受講者数:3 名 ③「鎌倉てらこや」(鎌倉市大船) 受講者数:3 名 ④CASACO(横浜市西区) 受講者数:7 名
3	2017/11/11(土) 10:00-16:00 @にしとも広場 受講者数:11 名	『テーマ:自分らしい場とは?』 ・現地見学ふりかえりワーク ・卒業生パネルトーク「自分のやりたいことをどう実現していくか?」 コーディネーター:吉原明香氏(認定NPO法人市民セクターよこはま 事務局長)、パネリスト:【第 5 期卒業生 3 名】奥井 利幸さん・迫 祐子さん・高橋 淳子さん ・ランチ交流会 ・自分の体験をふりかえる(個人ワーク、グループワーク) ファシリテーター:吉原明香氏
4	2017/12/9(土) 13:00-17:00 @にしとも広場 受講者数:14 名	『テーマ:続けて行くための土台づくり』 ・講義「フラットな組織運営/情報発信の仕方」講師:長田英史氏 ・講義「チャレンジプラン作成のコツ」講師:吉原明香氏 ・個人ワーク:チャレンジプラン作成 ・個別相談会:アドバイザー:長田英史氏
5	2018/1/13(土) 13:00-17:00	『テーマ:チャレンジプランを実践してみよう!』 ・相談用紙記入/チャレンジプラン修正

	@にしとも広場 受講者数:15 名	・グループワーク:「チャレンジプランを共有しよう」 ・講義「ニューズレターの作成について」 講師:吉原明香氏 ・個別相談会 ・個人ワーク:ニューズレター(準備号作成) ・全体共有
6	2018/3/10(土) 13:00-17:00 @にしとも広場 受講者数:12 名	『テーマ:チャレンジプランの実践報告会&修了式』 ・チャレンジプラン実践報告会 ・講義「受講生へのメッセージ:これからの活動に向けて」 講師:長田英史氏 ・修了式 ★修了者 14 名



<アンケートより>平均点 82.7 点 (100 点満点中)

- ・自分の所属している団体での運営の仕方に対して参考になりました。
- ・今これからの課題への解決策やヒントをもらえたり、今後もお世話になれる場と出会えて心強い気持ちになりました。
- ・たくさんのポジティブな変化があった。子どもたちに新しい遊びの場を提供して、子どもたちにもお母さんたちに

も喜んでもらえて自分もうれしくなる、という良いサイクルが周りに出来た。

- ・同じ活動のメンバー全員で受講したので、共通認識が持てて良かった。この講座で月に1回顔を合わせるので、より仲間感が強まった。
- ・軽い気持ちで受講し、当初は具体的な場づくりのイメージもありませんでしたが、チャレンジプランを実践するなかで、おぼろげながら、今後の方向性が見えてきた。この講座がなければ成し得なかったと思います。
- ・様々なキャリア、年代、目的…の人とのグループワークはとても新鮮だった。
- ・チャレンジプランを実践して、達成感を得られたことが自信につながった。

2) はじめての地域活動・市民活動応援講座（西区地域大プレ講座）の開催

- ・子どもたちの「居場所づくり」に20代を捧げたと語る長田英史氏を講師に迎え、「子どもの居場所づくり」の本質と実践のヒントを学ぶことができる講座（タイトル：「子ども居場所・あそび場づくり」～子ども自身の力で進行する集団あそびの活動～）を開催しました。
- ・講座前半は長田英史さんの講演、後半はグループワークをしながら、子どもの居場所についてグループで考え、共に学び合いました。
- ・参加者からは、「自分とは別の視点で場づくりの課題を考えるきっかけになった」「自分がやっている場への振り返りにつながった」などの声が聞かれました。
- ・本講座に参加した受講生4名が、西区地域大へ参加申込をし、地域大のプレ講座としても大きな役割を果たしました。



日時・場所	内容
2017/8/20(日) 13:00～16:00 @にしも広場 受講生 18 名／申込 22 名	・オープニング(自己紹介) ・講演「子どもの居場所・あそび場づくり」 ・グループワーク、全体共有

<アンケートより> 平均点 95.3 点 (100 点満点中)

- ・今後自分が活動していくにあたって「まさに！」の講座でした。
- ・自分がやっている場へのふりかえりにつながった。
- ・居場所づくりをするときの問題点・課題（子どもの問題、家庭の問題）などについても、もっと詳しくお聞きしたかった。また居場所によって地域がどのように変わったかのお話を聞きたい。
- ・いろんな方の話を聞けて楽しかったです。自分とは関係ない立場の方の話はとても新たな視点に気づかせてもらえました。参加して良かったです。
- ・"子どものあそび場"をと思い、活動していたが、まずは大人が居心地の良い場を作ることが大切だと感じました。
- ・子どもたちに何かさせてあげたいと考えていらっしゃる方がこんなに大勢いることを、とてもうれしく思いました。



3) 団体同士のネットワークづくり

・西区民まつりへの参加

当日は 348 名の方にご来館いただきました。（前年度比 169%増）

藤棚商店街、名達の会、NPO 法人はぐつとの協力を得てスタンプラリーを開催し、西区街の名人・達人登録者に呼びかけを行い、講師の作品をスタンプラリー景品として寄贈を依頼、他の景品も地域の藤棚商店街からの寄贈や咲弘洞（居場所づくり）、夢づくり三番館（障害者就労移行支援施設）からの購入など地域資源を活用しました。

また、西区街の名人・達人登録者（TH's ファンタジー）による音楽コンサートや、よこはま布絵本ぐるーぶ協力による布のおもちゃスペース、横浜ラポールの字幕付きの映像を流し、体験を通して団体や施設を知る機会を作りました。

当日は、登録団体の「ぐるめ西」や一般市民の方に、ボランティアとして協力いただきました。

日時・場所	テーマ・内容
2017/11/5(日) 10:00-15:00	目的：子育て世代のお母さんたちにしとも広場を知ってもらう。 内容：①スタンプラリー（参加総数 239 名） ②音楽コンサート（参加者数 40 名） ③チョークあそび（参加者数 56 名） ④布絵本とおもちゃ、字幕付き映像上映 ⑤活動団体紹介





・交流イベント おりがみカフェの開催

西区街の名人・達人に登録している、おりがみ講師 4 組に企画段階から参加してもらい、作風や年代の違いを越えてイベントを開催。地域のおりがみ好きの方との交流、講師同士の交流を図りました。また、参加者全員で作ったおりがみで 1 つの作品を作り、地域の希望する施設へネットワークを通じ情報を提供し、展示先を募集しました。

・協力：西区社会福祉協議会（ボランティアコーディネート）

イベントの活動補助や、カフェコーナーのボランティアについて、西区社会福祉協議会発行 西区ボランティアセンターニュース「花スイセン」にて募集しました。3 名の希望があり、当日 1 名が参加しました。

日時・場所	内容
2018/3/25(日) 10:00-12:00 参加者:35 名 ボランティア:2 名	内容: 4つのブースで、それぞれの講師によるおりがみ教室。 みんなで作りあげる折り紙作品 講師同士情報交換・交流会 講師:講師 4組6名 +補助1名 米岡 泰氏、福原 捷子氏、芹澤 洋子氏、Tremani (3 名) 協力:西区社会福祉協議会





4. はじめての地域活動・市民活動応援講座

- ◆ 一人ひとりの「何かを始めたい」思いや、その人の持つ特技を生かし、実際の活動につながるよう努めました

当センターには、「何かを始めたい」という思いを持って来館される方がいます。また、実は隠れた特技をお持ちの方々も多く来られます。思いや特技を活かした活動の「はじめての一步の場」として、当センターの活用を提案しました。

1) 日々の相談業務での丁寧な対応

- ・ 明確な「何か」は見つけれられていないけど、「何かを始めたい」という思いを持つ方の、「思い」を「活動」につなげる支援、すぐに「何か」を見つけられなくても、定期的に情報を提供したり、集まる機会をつくったり、緩やかに継続的長期的につながりを持ちながら、それぞれの可能性に合った活動につなげるために、一人ひとりに対する丁寧な対応を心がけました。

2) 特技を活かした発表の場づくり

- ・ 特技を活かした活動の「はじめての一步の場」として、当センターの活用を提案しました。
- ・ 活動者は、発表の場を得ることで活動が広がりました。一方で、参加者は、活動者をみて自分もやりたい意識をもつという、相乗効果がありました。

●街の名人・達人によるミニ講座（「来て・見て・聞いている日」）の開催【NEW】

日付	内容	講師	参加人数
2017/7/16(日)	つまみ細工の髪飾り	塚本 利花氏	7 名
2017/9/3(日)	はじめての水墨画	吉田 紅峯氏	5 名
2017/10/6(金)	ハロウィンのロゼット風ブローチ	tremani	19 名
2017/10/12(木)	太極拳のゆったり体操	内海 一恵氏	7 名
2017/11/20(月)	てがたサンタのオーナメント	tremani	9 名
2017/12/3(日)	ベリーダンス	高畑 住袈氏	7 名
2018/2/6(火)	日本舞踊エクササイズ	三浦 妙子氏	6 名
合計			60 名



●「昼どきコンサート」の開催【NEW】（毎週第4月曜日 12：15～12：45 開催）

日付	出演者	参加人数
2017/5/22(月)	La Seed	35 名
2017/6/26(月)	La Seed	42 名
2017/7/24(月)	La Seed	30 名
2017/8/28(月)	ママ音楽ユニット ♪ショコラッティ♪	40 名
2017/9/25(月)	La Seed	33 名
2017/10/23(月)	TH's ファンタ sy	23 名
2017/11/27(月)	音楽ボランティア 一座にしエイチファイブ	29 名
2017/12/25(月)	ママっこプラスにし	53 名
2018/1/22(月)	TH's ファンタ sy	24 名
2018/2/26(月)	加島 薫氏（マリンバ）	52 名
2018/3/26(月)	金子敏郎氏（カントリー＆ウェスタン）	39 名
合計		400 名



●「うたごえ広場」の開催【NEW】

2ヵ月に1回、来館者の少ない日曜日に、誰もが気軽に参加できるイベントとして「うたごえ広場」（14：00～16：00）を開催しました。定期的に行うイベントで、参加者同士が知り合える、何となく顔見知りになれるなど、職員が橋渡し役になりながら、つながりづくりの場になるよう対応しました。

日付	出演者	参加人数
2017/7/9(日)	音楽ボランティア 一座にしエイチファイブ	18 名
2017/9/10(日)	音楽ボランティア 一座にしエイチファイブ	32 名
2017/11/4(日)	音楽ボランティア 一座にしエイチファイブ	45 名
2018/1/22(日)	音楽ボランティア 一座にしエイチファイブ	22 名
2018/3/11(日)	音楽ボランティア 一座にしエイチファイブ	45 名
合計		162 名



4) 地域振興課が実施する生涯学習・市民活動支援講座「わが町、西区を知る講座」第2期の運営支援

- ・ まち歩きボランティアガイドとして、さくらフェスタ（2018年4月）でガイドデビューすることを目指した全8回講座について、企画・運営に協力しました。

★修了者 12名

5) 応援講座

- ・ 地域づくり大学卒業生の相談を受け、にしとも広場で「みちあそび」の企画開催を支援しました。
- ・ NPO法人はぐっと、よこはまユースとも連携を図り、当日のスタッフやボランティアとして関わりを得ました。

開催日時	内容	参加数
第1回 2017/7/23(日) 10:00～12:00	チョークあそび、水あそび、カプラ、新聞紙あそび NPO 法人はぐっとよりスタッフ、ボランティア参加 よこはまユースより中学生ボランティア参加	49名
第2回 2017/9/10(日) 10:00～12:00	チョークあそび、水あそび、カプラ、新聞紙あそび NPO 法人はぐっとよりスタッフ、ボランティア参加 市民ボランティア参加	39名



5. 地域人材ボランティア事業（地域人材ボランティア「西区街の名人・達人」）

◆ もっと地域で活用されるボランティアを目指して

今年度は3年毎の更新の年であり、それに合わせ、事業名を「生涯学習ボランティア『西区街の名人・達人』」から「地域人材ボランティア『西区街の名人・達人』」に変更しました。地域ニーズの掘り起こしのほか、より活動が活性化するように心掛け、コーディネートしました。

1) 更新

- ・ 更新に合わせ、「登録説明会」を平日昼・夜、土曜昼・夜と計 4 回実施し、登録者の思いや活動内容を聞くとともに、人材ボランティアという意味の確認や、地域で活躍するボランティア同士の交流の機会としました。
- ・ 登録後は、デザイン性を加味したガイドブックを作成し、区内施設各所や市内の各区支援センター、そして希望者に配布し、周知を図りました。（更新登録 108 件）

2) 新規登録の促進

- ・ 更新に合わせ、新規登録の呼びかけも積極的に行いました。
- ・ 広報よこはまのコラム（年 3 回）にて新規登録の方を紹介し、「地域人材ボランティア」の周知をはかり、新規登録の掘り起こしをしました。
- ・ 今年度の新規登録は、18 件となりました。（昨年度 4 件）

3) 「地域人材ボランティア『西区街の名人・達人』」のコーディネート（コーディネート実績 47 件）

- ・ それぞれの長所を活かしたコーディネートができるよう、活動先やコーディネート先に出向き「地域人材ボランティア」の活動の様子を知る機会をつくりました。
- ・ 「昼どきコンサート」、「うたごえ広場」、「来て・見て・聞いての日」等でも、「地域人材ボランティア」の活躍の場を作りました。また、イベント開催時に活動の紹介やイベントチラシを配布し周知に努めました。
- ・ コーディネートの相談があった際、単なるコーディネートにとどまらず、相手のニーズを丁寧に聞き、その地域や活動が活性化するコーディネートを目指しました。

4) 「地域人材ボランティア『西区街の名人・達人』」の更新に伴い、にしとも広場での説明会、活動内容の聞き取りを行い、ホームページ掲載情報の更新を図りました。

- ・ 新規で登録があった時は、速やかにホームページの検索データベースに追加するとともに、ホームページでも紹介しました。
- ・ 広報よこはま西区版のコラム欄で、年 3 回新規登録の方を紹介しました。（再掲）

6. 区内施設等との連携による地域支援

◆ 地域情報の共有と連携で、地域力アップを目指しました

昨年度は、各施設へのヒアリングや連携会議を通して、地域情報を共有する必要性と、施設同士の強みを活かした連携の必要性を再確認しました。これをもとに、今年度は具体的な連携に取り組む機会として、引き続き地域振興課、西区社協と連携し、施設間連携会議を主催するとともに、当センターも積極的に関係部署・区内施設と連携を進めました。

1) 区民利用施設等との連携会議の実施

- ・ 会議の名称を、「ゆるとも西」と決定しました。
- ・ 年 2 回、連携会議を実施しました。
- ・ 「ゆるとも西メーリングリスト」を始動し、情報共有を促進しました。

	日時・会場	内容
第1回	2017年7月27日(木) 14:00～17:00 @にしとも広場 参加者:16 施設 19 名 オブザーブ:10 名 (地域振興課、福祉保健課、高齢障害支援課、市民局市民活動支援課、西区社会福祉協議会)	・参加者自己紹介 ・講義「ニーズや課題、スケジュールを共有してセカンドステップへ」 吉原明香氏（横浜市市民活動支援センター責任者） ・自主事業発表大会 各施設の年間事業スケジュールを事前提出してもらい、それを冊子にして当日参加者に配布、順に事業内容を発表。 ・グループワーク「連携を探る」 気になる事業⇒「つながりカード」やりとり ＜アンケート結果より＞ 全員が連携会議開催を「よかった」と感じ、今後の連携について「具体的にはなかったが何かできそう」と回答。 ＜共催＞西区社会福祉協議会
第2回	2017年12月22日(金) 15:00～17:00 @にしとも広場 参加者:14 施設 13 名 オブザーブ:12 名 (地域振興課、福祉保健課、高齢障害支援課、西区社会福祉協議会)	・情報提供 西区高齢・障害支援課「西区の現状と課題(高齢分野)」 ・事例紹介 NPO 法人はぐつと(スマイルポート)「みちあそび」 横浜市中心図書館「読み聞かせボランティア養成講座」 ・つながりワーク コーディネーター／吉原明香氏（横浜市市民活動支援センター） 「視点を変える、見方を変える、プラスをオンする」 「来年度力を入れたい事業を語ろう」 ＜アンケート結果より＞ 全員が連携会議開催を「よかった」と感じ、5割が「連携に向け具体的な話ができただけ」、4割が「なにかできそう」と回答。 ◆つながりワークで出た「事業内容」「感想・イネ」「関与できそうなこと」を一覧にし、メーリングリストで共有した。他グループの意見も参考になると好評であった。 ＜共催＞西区社会福祉協議会

2) 区役所関係課・区内施設等との連携

- 関係各課、各所主催の会議に積極的に参加し、情報共有や課題解決に向けての検討を行いました。
- ・福祉保健課と西区社会福祉協議会が事務局の「にこまちプラン推進部会」のうちの下記部会
「ボランティア部会・市民活動部会（にこまちボランティアキャンプ）」（年5回）
「児童部会（年7回）/子どもたちの現状と地域ができることを考える勉強会（年1回）」
- ・西区社会福祉協議会「ボランティア・市民活動分科会」（年10回、オブザーブ参加）：ボランティア団体との関係構築、にしとも広場の周知に努めました。
- ・「地域センター会議」（年6回）：地域課題を一緒に解決できる西区らしいつながりや仕組みを検討しました。
- ・「西区読書活動推進連絡会議」（年2回）：読書活動推進のための事業等について検討しました。
- ・「西区定例支援調整会議」（第3回より参加）：区役所内外の連携推進に向け情報共有しました。

- 区内施設と連携し、下記事業を実施、共催・協力しました。
- ・ 戸部本町地域ケアプラザ「認知症サポーター養成講座」（会場／藤棚ライブステーション）
- ・ 横浜市中心図書館「未就学児向け読み聞かせボランティア養成講座」（会場／にしとも広場）
- ・ 生活支援センター西「精神障がいについて当事者から学ぶ」（再掲）
- ・ NPO 法人はぐっと、よこはまユース「みちあそび」（再掲）
- ・ 西区社会福祉協議会「おりがみカフェ」（再掲）

7. 場の提供

◆ 様々な人が集い、出会うことで何かが始まるセンターへ

2017 年度は、センターを知っていただく事に重点を置き、様々な世代の方向けのイベントを開催、足を運んでいただく機会を増やしました。毎月のイベントで顔見知りになった方が、誘い合わせてセンターを利用したり、「来て・見て・聞いている日」で活動の発表を行い、その後自主企画を立ち上げるグループも生まれました。職員は暖かく丁寧な対応を心掛け、気軽に足を運べるセンターを目指しました。

1) 人が集まる場所づくり

- ・「昼どきコンサート」【NEW】を開催し、月に一度、ボランティア団体の発表の場、地域の方の交流の場を作りました。（再掲）
- ・ 2 ヶ月に 1 回、来館者の少ない日曜日に、誰もが気軽に参加できるイベントとして「うたごえ広場」【NEW】を開催しました。定期的に行うイベントで、参加者同士が知り合える、何となく顔見知りになれるなど、職員が橋渡し役になりながら、つながりづくりの場になるよう対応しました。（再掲）
- ・「来て・見て・聞いている日」【NEW】を開催し、西区街の名人・達人の発表の場と共に、興味ある講座を通してセンターを知ってもらう機会を作りました。（再掲）
- ・「みちあそび」「区民まつり」「おりがみカフェ」では、子どもたちや、子育て世代の方も参加しやすい内容になるよう工夫し、センターへ足を運んでもらう機会を増やしました。（再掲）

2) 居心地のよい場づくり

- ・ 引き続きコーヒーコーナーとキッズコーナーを設け、居心地の良い空間を作りました。キッズコーナーは来館者に乳幼児連れの方が増えた事を受け、人工芝からマットへ変更し、より安全に衛生的にご利用いただけるよう工夫しました。また、おもちゃも新しく増やし、活動の合間や来館時にくつろぎやすい空間を創りました。
- ・ 予約ボードやテーブルサインで活動場所がわかるよう工夫し、寒い冬場にはひざ掛けを準備し、快適に過ごしていただけるようにしました。
- ・ 配架しているチラシの中から、おススメ情報をピックアップして、入り口の掲示板に貼り出し周知を図りました。
- ・ センターに立ち寄られた方に、情報誌や直近のイベントチラシなども活用し、センターを利用する活動の積極的な呼び掛けました。



3) 設備や什器の定期チェックによる事故防止の徹底

- ・ 月ごとに点検項目を決め、設備や機材を点検しました。安心して利用できる環境となるよう、事故を未然に防げるように留意して業務に取り組みました。

4) 利用者・関連施設等との意見交換会の実施（2018/2/2 10:00~13:00）

- ・ 下記 7 名の方に参加いただき、当センターの運営について、また地域の現状やニーズについて、様々なご意見をいただきました。

第五地区自治会連合会会長 平野周二さん

羽沢西部自治会会長 米岡美智枝さん

西区在宅介護者のつどいあけぼの会代表 竹下淳子さん

にしく名・達の会 会長 服部和男さん

NPO法人西区はーとの会理事長 三宅義子さん

スマイルポート施設 山田美智子さん

地域活動ホームガッツ・びーと西所長 阿部浩之さん

<ご意見より>

- ・ にしとも広場は、いろいろな情報発信ツールを持っているので、フル活用して欲しい。
- ・ 地域の会館を使って出張コンサートやイベントを開催して欲しい。
- ・ 多様な人達と一緒に地域で暮らしていることを発信してゆく時期になっている。

8. 職員の育成および研修の取組

◆ 日頃からのコミュニケーションを大切に、

職員が醸し出す雰囲気は、センターの雰囲気にも影響します。日頃からのコミュニケーションを丁寧に行うことは、職員間の人間関係や、センターの雰囲気づくりや居心地のよさにつながると考えます。研修については、今年度も常勤・非常勤ともに、内外の研修に参加し、スキルアップと新しい視点を取り入れるよう努めました。

1) 現場訪問

- ・ 市民活動や地域活動の現場に出向く機会を大切にしました。
- ・ これらを職員間で共有する機会を設け、相談対応力やコーディネート力のアップを図りました。

2) 相談力向上に向けた研修の実施（再掲）

- ・ 職員全員で行う会議において、定期的に、最近 1 か月で行った相談対応の中の、気になる事例をピックアップして職員間で共有しました。実際に行った対応が良かったかどうか、もっと違う対応はできなかったか等職員間で話し合うことで、職員相互の意識のずれや認識のずれを修正し、より良い相談対応ができるよう取り組みました。
- ・ 職員研修において、相談対応における基本の 3 つのステップ（インテーク、コーディネート、クロージング）を再確認し、さらなる相談力向上を図りました。

3) 防災・減災、防犯、個人情報保護などに対応した研修の実施

- ・ 個人情報保護に関する研修は、全員が必ず年 1 回以上参加し、さらに、日々の業務の中における情報漏えいを起こさない仕組みを全員会議で点検しました。（2017/4/25 実施）
- ・ AED や心肺蘇生法の研修を全員が年 1 回受ける機会を設けました。（2018/2/27 実施）
- ・ HUG 避難所運営研修に参加し、災害時対応について学びました。（2017/6/13 参加）

4) 他区の区版支援センターとの情報交換および交流、研修への参加

- ・ 横浜市民局市民活動支援課・教育委員会が実施する研修および、ネットワーク会議に参加し、他地域の先進事例を学びあい、積極的に情報交換を行いました。
- ・ 相鉄沿線 6 区市民活動支援センター会議に参加し、連携を深めました。（年 1 回開催）
- ・ 他区のセンター（保土ヶ谷区・栄区・中区・港南区・戸塚区・緑区・青葉区）に見学に行き、事業展開の方法や相談対応方法について、またセンター内の掲示物や配架方法の工夫について学ぶ機会をつくりました。

5) 外部研修への参加

- ・ 各職員が、外部研修に参加するなどしてスキルアップを図る機会を積極的に設けました。（参加研修 64 件）

9. 西区役所との協働

◆ 地域振興課および関係課とのさらなる連携をすすめました

センターが、「区民のつながりを育み、力を活かしあう地域協働の総合拠点」となるべく、地域振興課を中心とした区役所との協働をすすめました。

1) 地域振興課と日常的な情報共有や「定例会議」を通し、お互いの成果や課題を丁寧に共有

- ・ 「定例会議」は毎月 1 回実施し、1 月間の各事業について進捗状況や課題などを共有しました。
- ・ 日常的にもこまめな「報・連・相」を互いに実施し、よりよいセンター運営を目指しました。

2) 協働契約書を締結し、センターの事業目的の共有と双方の強みを活かした運営で協働

- ・ 協働契約書を締結し、センターの目的、双方の役割などを確認しました。
- ・ 区役所と民間である当法人の強みを生かし、相乗効果が得られるような運営を目指しました。
- ・ 区役所と当法人役員の意見交換の場を設け、センターの方向性を共有しました。

3) 地域振興課と当法人事務局長及びセンター長との「組織会議」を実施

- ・ 地域振興課と当法人事務局長及びセンター長による「組織会議」を四半期毎に開催しました。
- ・ センター運営状況や組織が一体となって運営していることをお互いに理解し共有し、さらなる信頼関係の構築とセンター運営の方向性を確認しました。

4) 西区役所関係課や他機関との連携による事業の実施

- ・ 事業の企画や実施において、地域振興課とセンターのみならず、内容に応じて、関係課や他の支援機関と連携・協働することで、さらに充実した事業の実現につなげました。

5) センター運営に関する協働のふりかえりの実施

- ・ 年度終了後に、「協働に関する相互検証シート」をお互いに作成し、にしとも広場の運営を協働で取り組んだことに関して振り返りを行いました。

